

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	1	学校名	静岡県立沼津視覚特別支援学校	校長名	田淵尚子
------	---	-----	----------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 視覚障害教育の専門性と授業力の向上、キャリア教育の充実	幼児児童生徒を主語にした「問いをもち、分かったと実感できる授業づくり」	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を生かし、個に応じた授業づくりができた教員 100% ・授業が分かりやすく、楽しいと思うと答えた幼児児童生徒 100% 	<p><教員> AB 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修参加、校内伝達研修実施、「はごろも『夢』講演会」特総研名誉所員大内進氏『視覚障害児の学びを支える認知力を高める支援』を実施。 <p><保護者> AB 89.5%</p> <p>「幼児児童生徒にとって、分かりやすく楽しいと思える授業が行われている。」</p> <p><幼児児童生徒> AB 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内グループ研修と一人一授業の公開を実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ研修では、教科学習、重複学級、高等部に分かれ、授業づくりについて学び合い、授業改善や授業力向上に活かすことができた。他校の授業や実践などを知る機会を引き続き設定したい。
	視覚特別支援学校としての学習環境づくり(教員の専門性向上、教材教具、ICT活用、歩行訓練士、視能訓練士等の活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動研修、視能訓練士、歩行訓練士との連携で得た知識や技能を授業、生活指導で活かすことができた教員 100% 	<p><教員> AB 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任者研修を5回、全体研修を4回実施。 <p>自立活動通信3回発行。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動研修では、基礎的かつ日々の実践に活かせる内容を扱い、専門性の向上につながった。一方で、他の職員がどのように知識や技能を活用しているか知りたい声も挙がったので、次年度は共有する機会を設けたい。
	自立へのビジョンをイメージしたキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の発達段階や年齢に応じた、キャリア教育の視点で授業を実践することができた教員 100% 	<p><教員> AB 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部内で進路に関する研修や情報提供を行い、学年進行に応じたキャリア教育を実施できた。 <p><保護者> AB 78.9%</p> <p>「将来の生活や目指す姿につながる現在の指導について、個別面談等で保護者と学校で共有できている。」</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとキャリア教育に関する共通理解を図ったことで、進路希望を意識した授業ができた。今後、さらに個に応じたキャリア教育を深め、保護者と共有を図りたい。

イ 命と心を 守る安全安心な教育環境	自分事と捉え、自ら考え、行動する防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学びや経験を活かして命を守る行動ができたと答えた幼児児童生徒80%以上 	<p><幼児児童生徒> AB 95%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・起震車体験が役に立った。 <p><保護者> AB 68.4%</p> <p>「防災教育について、様々な発生状況を想定した実践的な避難訓練や学習が実施されている。」</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練や事前事後学習を通して、発災時の身の守り方を確認したり、発災後の見通しをもったりする様子が見られた。事後アンケート結果をより効果的な指導につながるよう迅速に対応していきたい。
	自分も仲間も大切にす る心と体の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との交流や運動の楽しさを味わうことができた幼児児童生徒100% ・人権教育年間指導計画を活用し、人権感覚を意識した指導ができたと回答した教員100% 	<p><幼児児童生徒> AB 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の意見を元に運動週間の内容を決めて実施。 ・全校集会が楽しかったと答えた幼児児童生徒。 <p>AB 95%</p> <p><保護者> AB 94.7%</p> <p>「自他を尊重し、仲間との交流や運動の楽しさを味わうことができた。」</p> <p><教員> AB 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育年間指導計画を作成することで、人権感覚を意識できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を楽しみながら友達との交流を深めることができた。新しい運動も取り入れながら今後も継続したい。 ・全校集会では、ゲームを通して学部を超えて触れ合うことができた。また、中学部の生徒の活躍の場となった。 ・年計作成や教職員人権チェックシートを行うことにより、人権に配慮した言動や教材作成などを行うことができた。
ウ 地域とのつながり、視覚特別支援学校としてのセンター的役割の発揮	幼保、学校、行政等との連携による教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携後、支援が深まったと回答した相談者100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の在籍する市町へ、併行通園の説明や就学支援の相談、在籍校での配慮相談について関係機関の訪問を実施。相談児の保護者から支援が深まったとの回答があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での生活や学びについても支援ができることを伝え、連携することのメリットを感じてもらえることができた。今後も必要な支援について、本人や保護者と考え、支援の充実を図りたい。
	教職員一人一人が理解推進の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への理解が深まった割合が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス担当者対象の研修会、関係機関への理解推進活動、医療と福祉と教育担当者研修会を実施。 <p><関係者> AB 100%</p> <p>「学校への理解が図れた。」</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携機関を招いた研修会や理解推進活動に全校体制で取り組んだ。授業公開の際に視覚障害教育の専門性について考え直したり、本校について改めて知ったりする機会が専門性の継承の一因となっている。

様式第3号

<p>エ 働きがいを感じ、高めあう職場環境づくり</p>	<p>働きやすい学校にするためにチームで考え行動する職員集団</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談、協力しやすい職場だと思えた教員 100% ・教員、事務職員の専門性を生かした役割分担を検討し、令和7年度中に実施体制を構築 ・校内美化が行き届いている学校と感じる保護者、教員 80%以上 	<p><教員> AB 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務職員の校務運営への参画に向けて、私費会計業務等を見直し、教員と事務職員で協働業務に取り組んだ。 <p><保護者> AB 100%</p> <p>「清掃や掲示物等、校内美化が行き届いている。」</p> <p><教員> AB 96.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に合わせ、環境美化の整備を行った。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の事務職員の校務参画がスムーズに進むよう私費会計業務を整えることができた。 ・各種点検と対応の徹底により、環境不備に起因する事故は0件であった。引き続き、各種点検と対応の徹底及び情報共有を継続する。
----------------------------------	------------------------------------	---	--	----------	--